

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（22 社）

【広告・メディア】（10 社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、KADOKAWA、東宝

【エンタテインメント】（12 社）

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロプラ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ（注）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）コナミホールディングスが商号を変更した（2022 年 7 月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	10
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 145 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 35 名（所属先 25 社）である。（氏名等は 146 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 144 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 62.4 点（昨年度 64.1 点）、総合評価点の標準偏差は 10.1 点（昨年度 7.9 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（10 社）が 59.6 点（昨年度 60.7 点）、エンタテイン

メント（12社）が64.8点（昨年度67.2点）となった。両業態共に下がったが、エンタテインメントの下げ幅がやや大きかった。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が66%（昨年度67%）、**説明会等**が68%（昨年度67%）、**フェア・ディスクロージャー**が72%（昨年度71%）、**ESG関連**が58%（昨年度60%）、**自主的情報開示**が41%（昨年度53%）となった。**自主的情報開示**は、昨年度に続き平均得点率が下がり、40%台となった。
- ④ 評価項目について見ると、昨年度に続き、平均得点率80%以上はなく、次の**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目が70%以上となった（昨年度は70%以上が2項目）。

- ・ 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率77%〔昨年度79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台2社・70%台10社・80%台9社・90%台1社）

- ⑤ 一方、次の**自主的情報開示**の項目は、昨年度に比べ平均得点率が下がり、最も低い水準となった。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率41%〔昨年度47%〕）（得点率：20%台5社・30%台7社・40%台4社・50%台4社・60%台1社・70%台1社）

- ⑥ **ESG関連**の3項目（全て本年度の新設項目）は、次のとおりとなり、いずれも50%台と低い水準であった。

- (a) 「統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率59%）（得点率：40%台9社・50%台5社・70%台7社・80%台1社）
- (b) 「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率58%）（得点率：30%台3社・40%台4社・50%台7社・70%台4社・80%台4社）
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」（平均得点率55%）（得点率：30%台4社・40%台5社・50%台4社・60%台3社・70%台5社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 オリエンタルランド（ディスクロージャー優良企業〔4回連続4回目〕、総合評価点77.8点〔昨年度比－1.6点〕）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（得点率〈以下省略〉76%）、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（81%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（79%）、**説明会等**が第4位（78%）、**ESG関連**が第5位（74%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**および**ESG関連**を除く3分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」が、最も高い評価となった。また、「IR部門の機能・基本スタンス」も第3位となった。これらに関連して、経営陣が投資家との対話を行い、その意見を経営に活かそうとする姿勢を評価する声や、IR部門の質が高く、数字の前提や背景説明などを含めた有用なディスカッションができるとの声が寄せられた。なお、経営トップのスマールミーティングを望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第3位となったが、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は、昨年度に比べ得点率が下がり、第6位となった。これらに関連して、全体として詳細に情報開示がなされているとの声や、説明会での経営トップの発言をIR部門が的確にフォローしているとの声が寄せられた。一方で、中期経営計画の十分な説明や、四半期開示の内容充実を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、最も高い評価となった。これに関連して、フェア・ディスクロージャーを意識したIR対応がなされているとの声のほか、説明会の音声配信や質疑応答の開示を評価する声もあった。なお、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第9位）は、平均得点率と同程度となった。これに関連して、決算発表後に月次動向をヒアリングで

きる点を評価する声がある一方で、四半期での入場者数、客単価等の開示を求める声もあった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていること」（同得点第 3 位）が評価された。また、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も、同得点第 4 位となった。なお、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」については、同得点第 8 位となった。これに関連して、政策保有株式の保有目的の説明や、社外取締役の選任基準、独立性の説明が不十分との声があった。なお、ESG の取組みの軸を従業員に向けた点を評価する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、最も高い評価となり、第 2 位に 10 ポイント以上の差をつけた。これに関連して、定期的に開催される施設見学会が有益であるとの声が多数寄せられた。また、注目される事業の担当者とのミーティングを評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 セガサミーホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 77.2 点〔昨年度比+1.6 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

- ① 同社は、**説明会等**が同得点第 1 位（81%）、**経営陣の IR 姿勢等**（81%）、**自主的情報開示**（58%）が第 3 位、**ESG 関連**が同得点第 3 位（77%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 5 位（77%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**の上昇が目立った。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 2 位となった。これに関連して、IR 担当者とのディスカッションは有益であり、情報の信頼性も高いとの声や、IR 部門と事業部門との関係が密であると評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」は第 5 位となった。これに関連して、経営陣には、投資家やアナリストの意見をくみあげようとする意識があり、経営にも反映しているとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が共に、昨年度に比べ得点率を改善し、同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが戦略や見通しなどを詳細に説明しているとの声や、説明会資料は質・量共に充実しており、各ビジネスの売上・利益・KPI が丁寧に開示されているとの声が寄せられた。なお、家庭用とモバイルの営業利益内訳の開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、同得点第 4 位となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明会の動画配信、質疑応答の開示や、個人投資家向けサイトを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が、最も高い評価となった。また、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も、同得点第 4 位となった。これに関連して、統合レポートの内容が充実しており、最適資本配分などに関する説明も評価できるとの声があったほか、サステナビリティレポートが簡潔でわかりやすいとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 3 位となった。これに関連して、ゲーム事業の説明、ミーティングが有益との声のほか、各種媒体を通じて業界全体の情報発信に取り組む姿勢を評価する声があった。

同社は、3 回連続して第 2 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 バンダイナムコホールディングス（総合評価点 76.1 点〔昨年度比+2.7 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、ESG 関連が第2位（78%）、説明会等が第3位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第4位（79%）、自主的情報開示が同得点第4位（56%）、フェア・ディスクロージャーが第8位（75%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く4分野において、得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第2位となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」は第7位となった。いずれの項目も昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、経営陣の IR 姿勢は積極的で、スモールミーティングを適宜開催するなど投資家・アナリストとの対話に意欲的との声が寄せられた。IR 部門については、投資家・アナリストのニーズに前向きに対応しており、ディスカッションで得られる情報の信頼性も高いとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第1位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は第4位となった。これらに関連して、説明会資料等は質・量共に充実しており、決算内容や計画を定量的に理解しやすいとの声が寄せられた。また、自社の強みや方向性を伝えており、説明にもオリジナリティがあるとの声もあった。なお、各ビジネスの売上・利益・KPI の開示を評価しつつ、トイやゲームの将来性についての KPI の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第11位であったが、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第4位となった。これに関連して、説明会の説明概要、質疑応答の開示を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」および「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が共に、第2位となった。これらの結果、この分野において第2位となった。これらに関連して、統合レポートの内容は充実しており有益であるとの声や、サステナビリティに関する活動に積極的でありウェブサイトでも開示しているとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、同得点第4位となった。これに関連して、経営トップおよび主要役員による説明会、GUNDAM FACTORY YOKOHAMA 見学会、メタバース等の取組みに関する説明などを評価する声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 10点)		評価項目3 (配点 25点)		評価項目1 (配点 10点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4661 オリエンタルランド	77.8	28.4	2	15.5	4	7.9	2	18.4	5	7.6	1	1
2	6460 セガサミーホールディングス	77.2	28.2	3	16.2	1	7.7	5	19.3	3	5.8	3	2
3	7832 バンダイナムコホールディングス	76.1	27.6	4	15.9	3	7.5	8	19.5	2	5.6	4	3
4	9697 カプコン	75.5	29.3	1	16.2	1	7.4	9	18.1	7	4.5	7	8
5	4324 電通グループ	72.1	26.9	6	14.8	8	7.3	11	19.3	3	3.8	11	7
6	7974 任天堂	70.3	27.4	5	14.9	7	7.8	4	14.6	10	5.6	4	4
7	2433 博報堂DYホールディングス	70.2	26.3	7	15.3	5	7.3	11	18.3	6	3.0	16	6
8	6098 リクルートホールディングス	70.0	22.4	13	14.6	10	6.7	18	19.9	1	6.4	2	9
9	9468 KADOKAWA	67.2	24.3	9	15.1	6	7.7	5	14.7	9	5.4	6	10
10	3635 コーエーテックモホールディングス	64.0	23.1	11	14.7	9	7.4	9	14.3	11	4.5	7	5
11	9401 TBSホールディングス	62.3	22.0	14	12.7	14	7.0	16	16.8	8	3.8	11	15
12	3659 ネクソン	61.9	23.8	10	14.4	12	7.2	13	12.4	16	4.1	10	13
13	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	59.4	24.7	8	12.2	15	6.9	17	12.9	12	2.7	20	17
14	9766 コナミグループ	58.2	22.9	12	12.1	17	7.1	14	12.9	12	3.2	14	12
15	9603 エイチ・アイ・エス	54.8	20.5	15	14.6	10	7.9	2	9.4	22	2.4	22	11
16	9404 日本テレビホールディングス	53.3	18.8	19	12.2	15	6.7	18	12.5	15	3.1	15	18
17	9413 テレビ東京ホールディングス	53.1	18.0	21	13.4	13	8.4	1	10.0	19	3.3	13	14
18	3765 ガンホー・オンライン・エンターテイメント	51.9	19.4	17	10.8	20	7.6	7	9.6	21	4.5	7	16
19	9409 テレビ朝日ホールディングス	50.4	18.2	20	11.4	18	6.7	18	11.1	17	3.0	16	19
20	3668 コロプラ	50.2	19.2	18	10.0	21	5.6	22	12.6	14	2.8	19	
21	9602 東宝	50.0	19.6	16	10.9	19	7.1	14	9.9	20	2.5	21	20
22	4676 フジ・メディア・ホールディングス	47.4	17.8	22	10.0	21	6.4	21	10.3	18	2.9	18	21
	評価対象企業評価平均点	62.41	23.12		13.54		7.24		14.40		4.11		

2022年度評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（25点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	11
②価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	7
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	7
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。 【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	10

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部 会 長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	シティグループ証券

評価実施アナリスト（35名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
新井 勝己	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中島 智也	丸三証券
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
石原 太郎	大和証券	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
岸本 晃知	みずほ証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
城戸 謙治	アセットマネジメント One	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
栗田 敦史	大和アセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
栗原 智也	東海東京調査センター	森本 章	極東証券経済研究所
佐竹 一仁	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マッコーリーキャピタル証券会社
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山村 淳子	シティグループ証券
山藤 秀明	QUICK	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
鈴木 崇生	大和証券	渡辺 真理子	UBS 証券
寺島 正	大和アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。